

① 企業版ふるさと納税について

令和2年度税制改正が行われ、全国的に企業版ふるさと納税を活用している自治体が増えているようです。本町でも昨年、企業版ふるさと納税による寄付を受けることがあり、地方版総合戦略の財源として期待されるものと感じます。そこで、いくつか質問をします。

- (1) 本町での企業版ふるさと納税のこれまでの状況と現在の取組はどうか。
- (2) 企業への寄付の案内はホームページ以外にあるか。
- (3) 他自治体の事例を見てみると、具体的で特徴的な事業を取り上げ、企業に寄付のお願いを積極的に行っている自治体が成功事例として取り上げられているようである。寄付の対象事業を絞って企業へのアプローチを積極的に行うことが必要と感じる。新図書館建設にこの制度を利用する考えはないか。

② インターネットリテラシーについて

インターネットの普及に始まり、スマートフォンの急速な拡大によってITに触れる機会が増えるにしたがって、そのメリットによって生活が豊かになっています。その一方で、安心安全にインターネットを利用するためには情報モラルや情報セキュリティに関する知識や能力の向上が求められます。そこで以下の質問をします。

- (1) 小中学生の SNS や無料動画共有サイトの利用についてはどのように指導しているか。
- (2) 小中学生で、SNS や掲示板などでのネット上のいじめや個人情報の漏洩など現状のトラブルはどうか。またその対策はどうか。
- (3) ソサエティ5.0の実現や自治体DXを進めていくうえで、自治体職員のセキュリティスキルや情報リテラシーの向上が注目されています。本町の取組はどうか。
- (4) 高齢者のスマホの利用率が高まっています。インターネット利用時にメールによる架空請求や情報漏洩など、詐欺やトラブルにあう危険性があるので、自治体としても注意喚起が必要と感じるがどうか。

③ 道路上の電柱について

側溝をかわすために道路の中心側に電柱が建てているため、歩行者や自転車と自動車との接触が危惧される場所がある。そこで以下の質問をします。

- (1) 電柱を道路の端に寄せる解決策として、側溝の位置に電柱を建てて側溝を切り回すことで車道の有効幅を確保する方法がある。長崎市の住吉台町ではバス通りの電柱は全てこの方法で施工されている。本町での取り組みはどうか。
- (2) 昨年度、高田郷内の電柱の建て替え工事の時に、側溝の切り回しを必要としない方法で、側溝の位置に電柱が建てられました。新しい技術だと思われます。側溝の切り回しの方法と比べて、ゴミの詰まりの心配や、施工期間などにおいてメリットが多いように感じる。いっぺんには無理だと思うが、年に数本ずつでもいいから電柱を道路の端へ移設することは歩行者の安全を守るためにも有効だと考えるがどうか。